

平成 24 年度 第 1 回 千葉県安全性向上プロジェクト委員会 議事要旨

- 開催日：平成 25 年 2 月 28 日（木） 14：00～16：00
- 場 所：千葉市内 千葉市中央コミュニティーセンター 8F 海鷗
- 出席者：

千葉工業大学 工学部 教授	赤羽 弘和〈委員長〉
千葉県警察本部 交通部交通総務課長	中村 正幸
千葉県警察本部 交通部交通規制課長	宮本 正明
(社)千葉県バス協会 専務理事	花崎 幸一
(公財)千葉県交通安全協会 事業管理課長	松野 勉
(社)千葉県安全運転管理協会 事務局長	黒瀬 明
(株)千葉日報社 広告局長	鎗田 光明
千葉県県土整備部道路環境課長	木村 俊治
千葉県環境生活部生活・交通安全対策室長	刈込 昌利
千葉市建設局土木部 主幹	内山 恵市
首都国道事務所 副所長	神保 正信
千葉国道事務所 所長	西村 政洋

■ 議事

(1) これまでの取組みについて

事故ゼロプランの導入から事故危険区間の選定経緯について説明した。

- ・ 削除ルールについて、対策効果が発現した箇所を除外することで事故危険区間リスト中の区間数が徐々にではあっても減少する仕組みが望ましい。

(2) 対策実施区間のフォローアップ結果について

事業の進捗状況、既往対策箇所のうち、効果が発現した箇所、効果発現が見られなかった箇所を報告した。また、交通挙動による評価結果、及び千葉国道管内の対策工種別の対策効果検証結果を報告した。

○対策実施区間の事例について

- ・ 舞浜交差点における出会い頭事故は信号無視によるものと考えられる。信号無視の要因として、前方の車両につられて信号を見ずに走行している、また手前の信号ではなく誤って奥の信号を見て判断している可能性があるため、信号現示の改良やスリット付信号灯器の設置等を県警と協議して実施してほしい。
- ・ 園生十字路交差点は自転車との接触が多いが、鈍角交差点により自転車と車両の双方が、相手が信号無視をしていると考えていること要因の一つとして想定される。右折専用の検討等が考えられるため、県警と協議して対応してほしい。
- ・ 酒々井町上本佐倉付近について、対策後も 2 割の車両が交差点で車線変更を行っている。今後のフォローアップでも十分な効果が確認できなかった場合は、本線シフトや車線構成を示す案内看板の設置等の対策も考えられる。

○交通挙動による評価について

- ・ 対策工種別の対策効果について、1つの対策のみでなく、複数の対策を組み合わせること
で効果が出るといったこともあるので、今後検討してほしい。

○取組事例について

- ・ 二輪車の左折巻込み事故対策について、片側ドットマークの実施を検討しているとの
ことだが、車線構成によって期待される効果が異なるので、今後、千葉県内に導入す
る際には考慮してほしい。

(3) 事故危険区間の更新について

事故危険区間の更新結果、代表区間の更新結果について説明した。

○事故危険区間の更新について

- ・ 安全対策の効果が発現し代表区間からは除外された区間であっても、全区間の中では
依然として相対的に事故発生件数や発生確率が高く、事故危険区間には引き続き含ま
れる場合が少なくない。

(4) その他の交通安全の取組紹介について

通学路における緊急合同点検の実施状況、自転車利用環境整備の構想、道路安全監査の構
想について説明した。

○通学路の交通安全の確保について

- ・ 千葉県は事故のデータベース整備が全国でも進んでいる。それを活かして通学路点検
等の取組を効果的に実施してほしい。

○自転車利用環境の整備について

- ・ 自転車利用環境の整備について、交差道路、周辺の道路を含め面的に検討すべきもの
だと思うので、県警や千葉県、千葉市と協力して実施していきたい。
- ・ 自転車の通行空間の整備という視点で考えると交差点間の単路部における断面構成を
考えがちであるが、自転車事故の大半は交差点で発生しており、交差点での対応を検
討することが必要である。

○道路安全監査について

- ・ 千葉国道事務所では、第三者の視点でチェックを行う道路安全監査の導入を検討予定
である。
- ・ 第三者である監査員の選定、監査結果への対応など、実現に向けては課題があるが、
このような取組を進めることは有意義なことである。

(5) 今後の予定

○今回の資料で提示した代表区間について、提示を予定している。

○来年度の委員会は、来年12月頃を予定している。